

# 航空連合NEWS

発行: 航空連合/発行人: 坂元 慎平 〒144-0041 東京都大田区羽田空港3-5-10 ユーティリティセンタービル6階 TEL.03-5756-9020 FAX.03-5756-9025



## 小林茜会長に 今期も外部の登壇機会多数!

### 電機連合

### 女性三役情報交換会

10月6日(火)、電機連合※の女性三役情報交換会が開催され、トークセッションに電機連合 半沢 美幸 会長、東芝グループ労働組合連合会 中井 悦子 会長とともに小林会長が登壇しました。電機連合における ジェンダー平等推進計画を推進するにあたり、小林会長が自身の組合経験や航空連合における取り組みについて紹介しました。

### 01 リーダーへの歩み

**中井会長** 東芝に入社し、当時の商品試験センターというところに配属された。そこで組合の分会長などを経験する中で、短時間勤務制度の相談を受けるなどして、支部とのつながりができていった。その後、本社支部の執行委員専従になったが、当時は構造改革の嵐で、分社や転籍といった非常に厳しい案件が次々と出てきた。組合員の皆さんと直接向き合い、厳しい声をどう会社へ届けて改善していくかという経験は、今の私の大きな原点になっている。その間、育児休業も取得し、周囲の温かいサポートに本当に感謝している。その後、2012年に本部の中央執行委員になり、厚生労働省の研究会にも参加させていただいた。育児や介護の法改正の議論に携わる中で、「労働組合の声は法律や制度を変えることができるんだ、声を上げることって本当に大事なんだ」と強く実感した。そして2018年に書記長、2024年から現在のグループ連合会長と東芝労働組合の中央執行委員長を務めさせていただいている。最初は役職の打診に悩んだこともあるが、「チャンスをもらったらしっかり受けるべき、足りないものは後から学べばいいんだ」という先輩の言葉に背中を押されて今に至っている。

**小林会長** 2009年にJALに入社した。もともと大学では応用物理学を専攻していたが、インフラの世界に飛び込み、最初は成田空港で整備士として2年ほど現場を経験した。その後、成田の事業計画部門、さらに羽田に移り新型機(A350)



の導入時にコックピットのコンピューターを選定するというような仕事も担当した。それから整備支部の書記長で組合専従になり、その後、単組本部も経験した。さらに連合本部に派遣されてジェンダー政策を担当し、法改正の一連のプロセスに携わり、審議会・国会対応を周回で学べたことがすごく視野を広げてくれた。会長の打診を受けたときは少し悩んだ。しかし、連合在籍時に連合のジェンダー平等推進計画フェーズ2策定の担当だったことから、自分が全国で講演する際に「女性はチャンスが来たら掴まないとダメ」と言い続けていた手前、いざ自分のところに来たときに断るわけにはいかないと思ったのと、「前例のないことをやって、誰でもできるということを示して、成り手の分母を広げなければいけない」という思いからお引き受けした。今は事務局や組合員の皆さんに支えられながら、組織を変えていく意識を持って取り組んでいる。

**半沢会長** 日立に入社後、ソフトウェアのマニュアル作成などの仕事をしていて。組合との出会いは、一従業員として「この先結婚や出産、育児をしながら働き続けられるのだろうか」という漠然とした不安を持っていたことがきっかけだった。職場の先輩に誘われて「女性専門委員会」に参加し、先輩方がイキイキと働く姿を見て、すごく新鮮で楽しかったのを覚えている。その後、支部の執行委員になり、福利厚生や女性活動を担当した。制度の隙間に落ち込んでしまう人の声を丁寧に拾うことの大切さを学んだ。その後、支部書記長を打診されたときは一番悩んだ。「女性に書記長ができるのか」という声もあったが、「私にできることがあるかもしれない」とお引き受けし、企業内託児所(ゲン木クラブ)の立ち上げなどにも関わった。さらに、中央執行委員とし

※電機連合▶電機・電子・情報関連産業の労働組合により組織される産業別労働組合で、組合員数は約57万人。



航空連合ビジョン

いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りをもって働ける産業



て賃金や労働協約、企業再編など幅広い課題に取り組み、その後、電機連合の中央執行委員として育児介護休業法などの法制議論にも参画した。役員をしながら育児も経験し、時間に追われながらも周囲にたくさん助けていただいた。一貫して「働く皆様の幸せをいかに守り、向上させるか」という思いでここまで歩んできたと感じている。

## 02 各組織の現在地

**中井会長** 東芝グループ連合でも、女性の役員登用や各種セミナーへの参画を運動方針に掲げている。東芝労働組合では、2年に1度、育児中の方にも配慮して夕方に終わる「女性役員意見交換会」を開催している。また、多様性の重要性を男性役員にもしっかり理解してもらうため、ダイバーシティに関するセミナーを男性も含めて開催するように変えてきた。支部任せになってしまう部分もあるが、少しずつ女性役員比率も上がってきている。

**小林会長** 航空連合では、女性組合員が約6割と多い一方で、職種によって割合に偏りがある。そのため、カテゴリー別に目標を設定している。また、遠方から参加するメンバーの負担を減らすため、会議を午後開始にして17時は終了するなど、日帰りができるよう工夫している。さらに、女性役員向けの育成研修を7年間にわたって継続していて、組合だけでなく会社に戻っても活躍できる人材育成に力を入れている。

## 03 次の担い手をどう育てるか

### (1) 会場参加者から

**参加者1** 今の立場を引き受けるときは激しく悩んだ。「本当にこんな私に務まるのだろうか」、「書記長を通っていない自分に組織運営が分かるだろうか」と、経験値の面で一週間くらい真剣に悩んだ記憶がある。

**参加者2** 今年9月から単組の副委員長になったが、新しい部門に異動してまだ1年半で、自分の仕事にもまだ慣れていない中、「副委員長の役割と業務を両立できるのか」という不安が一番大きかった。

**参加者3** 今期から単組の副中央執行委員長を務めているが、子供がまだ小さく、保育園に通っている状態。役職が上がると責任やイベントごとが増え、周りがカバーしなければいけない範囲も広がるため、家庭との両立で非常に悩んだ。

### (2) 登壇者からのアドバイス

**小林会長** 皆さんの悩みを聞いていて、私もすごく共感している。経験の有無で言えば、私もいろいろな初めての役割に飛び込んできた。大変なこともあったが、振り返るとすべての経験が今の自分の強みや視野を広げることに繋がっている。「チャン

スをポジティブに受け入れていくこと」はすごく大事だと思う。それに、当事者だからこそ、組織を働きやすく変えていけるという面もある。

**中井会長** 私も過去に子育て中で役員の打診を2回お断りした経験があって、今でも少し後悔している。当時は「自分にできるイメージが湧かない」と一人で抱え込んでしまったが、組織の側から「こういう風にサポートするから大丈夫だよ」と具体的な安心感をもっと伝えられていたら違ったのかなと思う。本人の頑張りだけに頼るのではなく、組織として支えることが本当に重要だと感じている。

**半沢会長** 本当にその通りだと思う。限られた時間の中で活動するのは大変だが、周囲の仲間や家族のサポートをいただきながら、効率的に取り組んでいくことが大切。男性も含めて家庭との両立に悩む時代であり、組織全体として活動の見直しを進めていく必要がある。

**参加者4** 女性を役員や三役にどんどん登用したいという気持ちがある一方で、「女性だから登用された」と言われたら嫌だなという気持ちもある。女性は登用したいけれど、女性だからという理由だけで選ばれたくはないという、自分の中にある矛盾した気持ちにどう向き合えばよいのか。

**中井会長** 本当に私も同じジレンマをずっと感じてきた。女性が一人しかいない時期が長く続き、「女性だから」と思われていないか気にしたこともある。ただ、今はそれぞれの「個人の良い点や能力」をしっかり見て、その人に合った役割をお願いするようにしている。

**小林会長** 私も同じように思う。どうしても「女性枠」のような見方をされることはあるが、そこから逃げるのではなく、自分自身の経験や意見に自信を持って挑むことが大切だと感じている

**半沢会長** そのお気持ちはすごくよく分かる。私も「女性だから登用された」側の人間だという思いと矛盾感をずっと持ってきた。でも、女性であることから逃げることはできないし、一女性の意見として大事な役割を果たしていこうと取り組んできた。それに、管理職や組織はちゃんと周りを見ている。「この人ならできる」と見込んでお願いしているわけだから、ぜひその目を信じて、自信を持ってチャンスを受けていただきたいと思う。いつの日か、男女の比率を特別に意識しなくても、自然に多様なメンバーで構成される社会が来ることを願っている。

### 登壇してみて

先輩のお二人から、自分がトップを経験して「楽しさややりたいことを伝える重要さ」と「トップをやった良かったと誇れる環境整備をしていくことが必要」というメッセージをいただき、あらためて自分の役割を実感しました。みんなに「ぜひやってみて!」と思ってもらえるように、魅力ややりがいを発信していきます!



# 未来を選択する会議 1周年全国シンポジウム



確実に進んでいる人口減少という課題に対し、労働組合としても持続可能な組織運営の観点で、非常に危機感を持って取り組んでいる。本日は組合の視点に基づく取り組みを紹介させていただく。

私たちの組織は約5万人規模で連合に加盟している。連合の構成組織の中ではそれほど大きくないが、特徴として、**各加盟組合の執行部が全体的に若いこと、また女性組合員の割合が6割と比較的高いこと**が挙げられる。多様性推進の観点から積極的に取り組みを進めるとともに、7つの地方組織を通じて地域に根ざした運動も展開している。

コロナ禍においては人材の流出が大きな問題となり、それ以降も、特に航空機整備やグランドハンドリングなどの分野では回復が遅く、人材の確保・育成・定着が課題となっている。そのため、労働政策と産業政策を両輪として、より良い働く環境と魅力ある産業づくりを目指しており、組織基盤強化のための「組織拡大、仲間の輪の拡大」と、ジェンダー平等をはじめとする「多様な人材が活躍できる組織づくり」の2点が重要となっている。そのような組織づくりを通じて、自分たちの政策に厚みをもたせるとともに、さらに産業・組織の魅力向上につながる好循環を実現していきたいと考えている。

この取り組みを推進する上では「**ジェンダー平等・多様性推進**」が重要なキーワードとなっており、主に2つのパートから構成される計画を策定し、実行している。

まず、「労使のアクション」としては、労使で連携して各種人事・厚生制度を整えるとともに、春闘のような労働条件向上だけでなく、組合員の働きがいを実感できるキャリア形成のサポートを具体化していく。

もう一方の「組合組織におけるアクション」としては、ワークライフバランスの推進や組合活動スタイルの見直しに取り組んでいる。しかし、家庭や仕事と組合活動の両立の難しさや不安の声は、依然として多く挙げられている。

他産別の女性リーダーの方達と対談をする機会を多くいただいているが、そこで感じることは**当事者が主体的に飛び込んでいける環境づくりの重要性**である。組織的なサポートに加え、**当事者自身の意識改革も大事である**と感じており、**そのためには、多様な経験を積み、それを通じて自信をつけていくプロセスが必要**である。加えて、**当事者自身がためらいの要因を取り除いて制度・組織を変え、後世のためのロールモデルとなっていくことが必要**だと考えている。

現状、女性組合員の比率は業種によって幅があるため、3つのカテゴリーに分けて目標を設定し、計画を推進している。航空機整備や貨物など、女性組合員の比率が低いカテゴリーにおいても、持続可能な運営に向けて労使で認識を合わせ、多様な仲間が活躍できる環境整備に力を入れている。

加えて、組合内でのステップアップや、会社に戻った後の管理職登用を見据えた女性役員の育成研修にも取り組んでいる。確実に参加者の意識が高まるなどの変化が出てきているが、さらなる後押しをどう進めるべきかについて、今後皆様からのご意見もいただきながら、強みを活かして取り組みを進めていきたいと考えている。

10月9日(金)、浦安ブライhtonホテル東京ベイおよびオンライン(YouTube Live配信)のハイブリッド形式で開催され、会場(約200名)・オンライン(約350名)あわせて約550名が参加しました。複数あるセッションの1つとしておこなわれた「ショートトーク：人口減少社会に挑む次世代の力」では、人口減少と向き合い第一線で活躍する9名の実践者からの問題提起がおこなわれ、小林会長は労働界からの唯一の代表として登壇し、「労働組合のジェンダー平等・多様性推進の取り組み」について報告しました。



### 女性会長になったことによる変化

- 執行部内で、まだ割合が少ない女性役員にとって、**親近感がある**  
✓ 女性役員の活性化や発言のしやすさにつながる
- 産別の比較的若い女性会長が少ないため、**組織外から注目される**  
✓ 取り上げられる機会や講演の機会が増え、活動を発信できるチャンスが増える  
✓ 労働組合のイメージチェンジへの効果
- 重要だとわかっていながらも、後回しにされがちな「ジェンダー平等・多様性推進」が、積極的に押し出される  
✓ **加盟組合の意識が確実に高まる**

ジェンダー平等・多様性推進は、取り組みの本質的な意義・目的を理解しないことには始まらないため、加盟組合への情報発信、対話を地道に続ける必要がある。

### 「未来を選択する会議」について

- 目的** 人口減少社会における「生き方」「くらし方」「働き方」を考え、その実現のために必要な社会構造の見直しや一人ひとりの意識改革に向けて、社会の気運醸成に取り組む。
- メンバー** 経済界、労働界、地方自治体、地域、子育て支援などを行う関連団体、学識者、若者世代など、幅広い層が参画。
- 議長** 三村 明夫 日本製鉄株式会社名誉会長  
(連合 芳野友子会長が共同代表に)
- 事務局** 公益財団法人 日本生産性本部



# 「令和8年熊本地震」連合救援ボランティアに参加しています!

7月28日に発生した令和8年熊本地震を受けて、連合は9月から救援ボランティアを募集・結成して現地に派遣しており、航空連合からも3名が参加しています。

現地では、被災地域における個々のニーズとのマッチングをおこないながら様々な作業を実施していますが、主には倒壊・半倒壊家屋からの家具の運び出しやブロック塀の撤去が多く、安全に細心の注意を払いながら、他の参加者と連携して取り組んでいます。

熊本県は2016年にも大きな地震に見舞われており、作業を通じて接点を持った被災住民からは落胆ぶりが伺えましたが、一日も早い復旧・復興に向けて、航空連合としても引き続き積極的に参画し、社会的役割を發揮していきます。



## 航空連合からの参加者

第5クール (10/11~17)

宇津木 健佐 副事務局長

第6クール (10/18~24)

藤田 祐弥

中央執行委員 (JAL エンジニアリング労働組合 本部執行委員長)

中園 達也

副事務局長

## 航空連合

は、航空関連産業で働く仲間・労働組合が大同団結し、産業の魅力の向上や基盤の強化に向けて1999年10月に結成された、航空労働界を代表する最大の産業別労働組合です。60の企業別組合の50,669人(うち客室乗務員約15,000人)で構成され、ナショナルセンター「連合」に加盟しています。



フォローを  
お願いします!

Facebook



Follow me!

Instagram



公式アカウント  
に登録して  
ください!

LINE



ニュース・航空連合へのご意見はE-mail、またはLINE公式アカウントでお受けしています。

アドレス [avinet00@jfaiu.gr.jp](mailto:avinet00@jfaiu.gr.jp)

ホームページ <https://www.jfaiu.gr.jp>